**城の梁を伸ばした職人**

松本城の大天守（1593-1594）の建設には、百人以上の大工が動員された。そのうちの一人は、仕事から逃げるかのように、木材を接合するための釘を時々削る程度で、他の職人たちを呆れさせていた。

そして、いよいよ天守閣を建てるための最も重要な作業、中央の棟木を支える梁を設置する段階になった。ところが、この梁が15センチほど短くて、大工さんたちはびっくりしたという。

大工たちはショックで言葉を失った。どうしたらよいのだろう？その時、その何もしない大工が口を開いた。「梁を伸ばしてみるよ」と言いながら、100人の大工たちを二手に分けるように指示した。そして、100人の大工を東と西に分けた。そして、その何もしない大工は、それぞれのグループの梁の端にロープを結ばせた。そして、「引っ張れ」と指示を出し、皆がロープを引っ張る中、自分は梁の真ん中でバランスを取りながら立っていた。そして、ここぞとばかりに、大きな木槌で梁を一回、二回、三回と打ち鳴らした。そして、飛び降りるようにして木槌を落とし、「これで15センチくらいかな」と言った。

すると、梁の長さが15センチほど伸びているではないか。この奇跡的な出来事に誰もが驚き、それ以来、この大工は名工と呼ばれるようになった。